

# 國學院大學學術情報リポジトリ

〔談話室〕 ことばはコミュニケーションの「ため」のもの？

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水口, 学, Mizuguchi, Manabu メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00000750">https://doi.org/10.57529/00000750</a>

# ことばはコミュニケーションの「ため」のもの？

水口 学

人間のことは、コミュニケーションのためにあるとよく言われる。例えばWilliamsは、言語の主要で、基本的な役割がコミュニケーションであると述べ、Jackendoffは、主にコミュニケーションを向上させるためにことばが生じたと述べている。BloomfieldやHockettなど、言語に関する20世紀の主要な見方は、行動主義心理学に代表されるように、訓練によって刷り込まれた習慣から形成されるコミュニケーションの体系というものであり、人間の言語は、動物のコミュニケーションから生まれたものであると一般的には考えられている。しかし、ことばは本当にコミュニケーションのためのものなのであるか。実際、コミュニケーションはことばを使わなくても成立する。

人間がことばを使用することができるのは、遺伝的にプログラムされた「言語能力」が生得的に備わっているからである、と考えられている。この言語能力は、ヒトという種を他の種と決定的に区別するヒト固有の能力であり、心臓や肺などと同様に、ひとつの器官を構成している。脳内に存在することから、「心的器官」と呼ばれている。我々人間は、生物学的特質としての言語能力を持ち、それによって、英語や日本語などの個別言語を母語として習得して（発達させて）いるのである。

このように、言語は自然物であり、我々人間の中で自然に起こるものである。言語（母語）は、我々の中、精神に内在化しているものであり、そのおかげで、常に新たな文を際限なく生み出し、理解することができるのである。母語は、我々の中に内在化しているが故に無意識のものであり、その理由がわからなくても、母語の文法性に関する直観的な判断ができ、適格な文と不適格な文の違いが分かる。英語の母語話者であれば、誰しもJohn saw Maryは英語として問題ないが、Saw John Maryは英語としておかしいことを教わらなくとも判断できる。また、同じような意味をもつeat

とdevourという単語を含む文でも、目的語が生じないJohn ateは何もおかしくないのに、一方でJohn devouredはおかしいと判断できるのである。

このように、言語は生物学的特質が生み出す自然物であり、人工的に作り出されたものではない。人が意図的に作り出すものは、設計者がある特定の目的を持って意図的に作り出すことで、その目的を果たしている。つまり、人工物にははつきりとした目的があり、明確に「Aは、Bのため」と言うことができる。一方、自然物にはある特定の目的を持つ設計者がいない。自然物は、自然の摂理によって生じたものであり、そこに目的など一切存在しない。また何かの目的のために進化することもない。キリンの首が長いのは、高いところにある食べ物を取るためではないし、そのために進化したわけでもない。自然の摂理によって長くなつた首を利用して、高いところにある食べ物を取っているだけである。同様に、我々は自然の摂理から生じた言語をたまたまコミュニケーションの手段として利用しているだけなのである。

実際、これまでの言語研究から、言語能力が生み出す言語は、コミュニケーションの目的には非常に不適格なものであることがわかっている。例えば、言語には「移動」という現象が見られ、Who did you see?といった文のように、語句が発音される位置と解釈される位置が異なることがある。もし言語がコミュニケーションのためのものであるのならば、解釈される位置で発音された方が遥かに理解が容易で、コミュニケーションのために資するはずである。これは、発音される位置と解釈される位置の間が長くなればなるほどそうである。また、The boy who fixed the radio carefully drove his car.とI saw very old men and women.のように、曖昧さを生じる文が多々ある。コミュニケーションを図る上で曖昧さは避けられるべきものであり、もし言語がコミュニケーションのためのものであるならば、言語は曖昧さを一切生じさせないようにになっているはずである。このように、コミュニケーションの目的には、言語が非常に不適格なものであると考えられる。

確かに、Asoulinが指摘するように、生物学的自然物も特定の機能を持つが、それは人工物のように内在的なものではなく、その自然物を説明しようとする理論の中で相対的に解釈された結果として得られるものである。上でも見たように、現在の言語研究から得られる結論は、言語がコミュニケーションのためのものではない、ということになる。